

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第21号—



柱穴のなかに支えとなる根石をいれ、その上に柱をたてた掘立柱建物跡（戦国時代～江戸時代）

きょうこ はしら ほったてばしらたてもものあと にいだふるだていせき 強固な柱をもつ掘立柱建物跡 ～新井田古館遺跡～

新井田古館遺跡では根石をもつ掘立柱建物跡がみつかりました。根石をいれたのは、柱にかかる重さを分散させ、柱や柱が支える屋根などが沈まないための工夫とみられます。

青森県内の同じ時代の掘立柱建物は、柱穴に直接柱をたてる方法が一般的です。根石をもつ建物は数少なく、北畠氏の浪岡城跡（青森市）や三戸南部氏の聖寿寺館跡（南部町）などで確認されていますが、特別な建物を支えた強固な柱と考えられています。（次頁につづく）



ほぼ同じ高さに根石がならぶ柱穴列（戦国時代～江戸時代）



戦国時代から江戸時代の館跡～新井田古館遺跡～

本遺跡は、八戸市中心部から南東に3kmの位置にあり、新井田川にほど近い標高4～10mの低地に立地します。これまでの調査により、縄文時代・弥生時代・古代・中世・近世の遺構と遺物が確認され、あらゆる時代の人びとにとって住みやすい土地だったことがわかっています。また、本遺跡の北側半分は主に戦国時代の土塁や堀で区画されていた館跡（郭）であったことがわかっており、今回見つかった戦国時代～江戸時代の遺構と遺物も、館に関わるものと考えられます。

今回調査した第31地点は、土塁や堀は確認できませんでしたが、館跡の南東端部と推定されます。土塁は既に失われている可能性が高く、堀跡はより東側を巡るとみられます。

検出した遺構は、竪穴建物跡が多いことが特徴です。また、出土した遺物の中では、16世紀代の国産陶器（多くは瀬戸産）や中国産輸入磁器とともに、鍛冶や鋳物を行う道具（鉄滓・坩堝・鉄鉗・鋳型）が見つかったこと

が注目されます。

戦国時代～江戸時代の八戸では、人びとが使う建物は掘立柱建物が大部分を占めるようになり、竪穴建物は少なくなります。このことから、今回見つかった多くの竪穴建物跡は、普段使う住まいではなく、倉庫や作業場など限られた目的のものと考えられます。そして、この地点は館跡内において鍛冶や鋳物といった作業を行う場として利用された時期があるとみられます。

また、根石をもつ掘立柱建物跡は、多くの竪穴建物跡を壊してつくられており、ここが作業場から居住地へと変化したことがわかります。これまでの調査からも、館跡内の土地利用の仕組みがいくつかの時期に分けられることが明らかになっており、今回の調査においても館跡内での暮らしぶりが変化した様子が確認できました。（苧坪 祐樹）



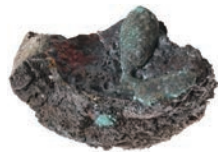
国産陶器(瀬戸産)



輸入磁器(中国産)



かなはし
鉄鉗



るつぼ
坩堝



つば
いがた
鋳の鋳型

出土遺物



新井田古館遺跡北側の館跡（戦国時代～江戸時代）

縄文時代の「水の道」を調査～一王寺遺跡～

①平成 29 年度の発掘調査について

本遺跡は、新井田川に面した標高 20m から 40 m の台地と、標高 100m 前後の丘陵に広がる、縄文時代前・中期の円筒土器文化を中心とした大きな集落跡です。台地上のゆるやかな斜面に、居住域や捨て場が広がり、遺跡南側の沢にも捨て場がつけられています。背後の丘陵は、集石などの祭祀・墓の空間として利用されていました。

今年度は、是川縄文館分館（縄文学習館）からは是川遺跡記念碑に向かう道路のアスファルト舗装をはがして調査しました。この地下には、中居遺跡の低湿地の水源地となっている縄文時代から続く水の道があることが予想されていました。



縄文学習館からは川遺跡記念碑へ向かう道路（東から）アスファルト舗装された道路の地下を調査しました。

道路の下には、予想したとおり、地下水が豊富に流れていました。縄文時代、一王寺や中居の縄文ムラには、山から流れる小川がある風景が広がっていたのでしょうか。西側の丘陵から東側の新井田川へと流れるこの水の道は、現在、中居遺跡の低湿地に眠る漆製品などを水漬けの状態に保存してくれています。



注口土器
今回の調査で出土した、縄文時代晩期の土器です。



アスファルト舗装の下を調査したよう
たくさんの地下水が湧き出てきました。

②新しい発掘調査報告書を刊行！

八戸市では平成 26・28・29 年の 3 か年にわたり、一王寺遺跡の集落を解明するための発掘調査を行ってきました。今回、その成果をまとめた発掘調査報告書を刊行しました。

ここでは、約 80 年ぶりに発掘調査を行った一王寺遺跡の貝塚の研究を通してみえてきた、縄文人の食生活について簡単にご紹介します。

【一番多く食べられていた魚はカツオ！】

貝塚に入っていた魚の骨を調べたところ、大型の魚ではカツオがいちばん多く見つかりました。また、鹿の角でつくった釣針や銚頭もりがしらが出土していることから、本遺跡の縄文人は舟で沖に出て魚をとっていたのでしょうか。

【たくさんの木の実を発見！】

貝塚からクリやオニグルミの殻が炭になった状態で出土しました。これらの木の実は、縄文人のおもな食べ物であり、当時の一王寺ムラには、クリやオニグルミの林が広がっていたのでしょうか。（横山 寛剛）



八戸市埋蔵文化財発掘調査報告書第 164 集
『史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書 II』
- 平成 26・28・29 年度一王寺遺跡史跡内容確認調査報告書 -

是川縄文館の図書閲覧コーナーや八戸市立図書館などでご覧いただけます。

りょくゆうとう き 緑釉陶器を発見～くまの どうい せき 熊野堂遺跡～

熊野堂遺跡は、八戸市中心部から西に1 km、八戸市長根地区の馬淵川^{まべち}に面した標高16 mの段丘上に位置します。これまでの調査により、古代の集落跡であることがわかっています。特に第1・2地点を合わせた約5,700 m²からは、竪穴建物跡が167棟検出されています。その大部分が平安時代に何度も作り替えられたもので、継続した定住生活の様子が明らかになっています。また、この時期には集落を区画する大きな溝が巡っていたことも分かっています。

今回調査した第6地点は、段丘の端部にあたり、遺跡範囲の周縁に位置します。調査区は幅3～4 m、長さ約80 mの限定された範囲でありながら、竪穴建物跡14棟、炉跡5基、土坑39基、溝跡4条などを検出し、熊野堂遺跡の周縁部まで遺構密度の高い状況が続くことを確認しました。

出土した遺物の中で最も貴重なものは、緑釉陶器です。緑釉陶器は、緑色の成分である銅を加えた釉薬^{うわぐすり}をかけて焼かれた陶器で、主に平安時代に使われたものです。この陶器は、平安京の周辺や東海地方などの特定の窯^{かま}でのみ生産され、本遺跡でみつかったものは滋賀県付近の窯で平安時代の10世紀後半につくられたものとみられます。割れ口が丁寧に磨かれており、壊れてからも大切に扱われていたことが分かります。

緑釉陶器の出土は青森県内では6遺跡目、八戸



何度も同じ場所に作り替えられる竪穴建物跡（平安時代）

市内では初めての事例です。

今回調査により、平安時代の八戸に暮らした人びとが遠い地域とつながりをもっていたことが明らかになりました。熊野堂遺跡は、馬淵川を利用し、内陸部や沿岸部に移動しやすい立地であるため、平安時代の八戸において交易・交流の拠点であったようです。（苧坪 祐樹）



内面



側面



外面

八戸市内で初めて出土した緑釉陶器（平安時代）

平成 29 年度遺跡調査報告会を開催しました

平成 29 年 11 月 11 日（土）に、八戸市内の遺跡発掘調査の主な成果を発表する遺跡調査報告会を開催しました。今回は、市内外から約 60 名の参加がありました。報告会では、縄文時代の一王寺遺跡（是川地区）、平安時代の熊野堂遺跡（長根地区）、戦国時代の新井田古館遺跡（新井田地区）、江戸時代の雷遺跡（中居林地区）の 4 遺跡の報告を行いました。

遺物展示会場では、一王寺遺跡の縄文土器・石器、整理中の魚骨・貝殻などの動物遺存体、松長根遺跡の弥生土器・石器、熊野堂遺跡の土師器、緑釉陶器、新井田古館遺跡の陶磁器、鉄製品、雷遺跡の煙管・錢貨などを展示しました。

平成 19 年度から 29 年度までの遺跡調査報

告会の資料は、是川縄文館のホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

（横山 寛剛）



報告会会場のようす

これかわの一品①「亀形土製品」

ここでは、是川縄文館に収められている数々の出土品の中から、ちょっと変わった遺物を紹介します。

いま日本は、空前のペットブームとされています。例えば、その代表として真っ先に思い浮かぶイヌは、家畜としての歴史が古く、人とのかかわりは旧石器時代にまでさかのぼります。縄文時代には、この他にも様々な動物が生活に溶け込んでおり、縄文人は、食料であると同時に神聖なものとして、動物を象った土製品をつくりお祈りの対象としていました。

今回紹介する遺物は、新井田川の支流である松館川沿いの松館遺跡からみつかった、縄文時代晩期（今からおよそ 3 千年前）頃の、中が空洞になっている動物形の土製品です。長さ 5.0 cm、厚さ 2.4 cm のとても小さなもので、一カ所に孔が空けられています。一見すると亀のようですが、アザラシやアシカなど

かめがたどせいひん
かいじゅう
の海獣という説もあります。孔に息を吹きかけ笛として、あるいは孔に棒を刺し立たせて、マツリの時に使ったのかも知れません。

この遺物は、平成 30 年の秋に開催する是川縄文館の企画展「どうぶつと縄文人」で展示する予定ですので、みなさん是非実物を見ながら、何の動物か、どう使われたのか想像してみてください。（小保内 裕之）



松館遺跡からみつかった亀形土製品



是川石器時代遺跡の第1期整備基本計画を策定しました！

八戸市は、「是川縄文の里」整備の推進のため、平成30年3月に「史跡是川石器時代遺跡第1期整備基本計画」を策定しました。

この計画は、平成28年3月に策定した保存活用計画を踏まえて、遺跡の具体的な保存や整備・活用の方法、環境復元の方法を定めたものです。

計画策定にあたり、平成29年8月にはパブリックコメントを実施しました。八戸市内外から35件の意見があり、寄せられた内容を反映させながら、整備検討委員会や文化庁、青森県教育庁文化財保護課と協議を重ね、計画の策定を進めました。

計画では、「祖先の歴史を明らかにして、将来に伝え、現代に活かす」ことを整備・活用のテーマとして掲げ、第1期として、調査が最も進んでいる中居遺跡と一王寺遺跡貝塚地点の約27,000㎡部分を先行して整備を進めることとしました。

中居遺跡では、縄文時代晩期の集落全体がわかる特徴を活かして、遺跡からみつかった竪穴建物跡・水場・土坑墓・配石遺構・捨て場と、当時広がっていたクリ・トチ林などの植生環境の復元整備を行い、集落の変遷を遺跡全体で表現します。また、一王寺遺跡貝塚地点では、出土貝類と同じ現生貝類を用いた貝塚の復元整備を行います。

今後、整備の設計を進め、平成32年から第1期整備の工事に着手する予定です。

いよいよ「是川縄文の里」整備が本格的にスタートします。ぜひご期待ください！

(市川 健夫)



クリ・トチ林イメージ(中居遺跡)



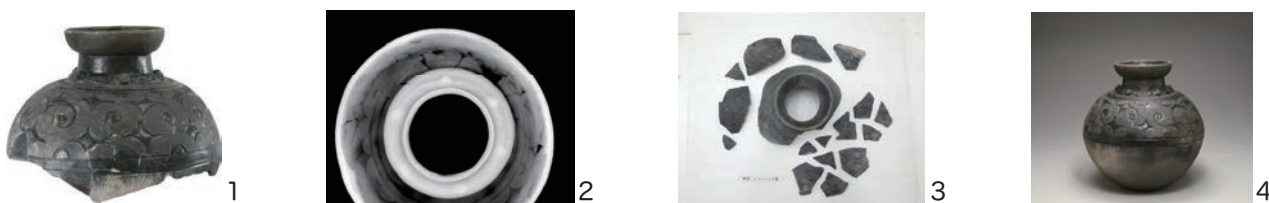
是川石器時代遺跡第1期整備の完成予想図

平成 29 年度是川遺跡出土品保存修理事業

平成 23 年度に重要文化財に追加指定された「青森県是川遺跡出土品」の中には、修理や補強を必要とするものがあります。特に漆製品や木製品は形状が変化しやすいため、経過観察と適切な保存修理を継続的に行う必要があります。

平成 29 年度は、土器 3 点、漆製品 18 点、木製品 1 点、計 22 点の保存修理を行いました。修理では、細部の観察や X 線撮影により状態を確認し、クリーニングを施した後に、それぞれの状態に応じた修理が行われます。土器はいったん解体し、歪みがないように組み立て直し、欠失部分や補強のための樹脂等を充填し、補彩して仕上げられます。樹脂は取り外しが可能な素材を使い、補填した部分は本体と区別がつく色に塗られます。

これらの資料は、保存修理によって、安定した状態を保ちつつ、本来持っていた美しい姿をよみがえらせ、展示等で公開・活用することが可能になります。今後も貴重な文化財を未来に伝え残していくために、少しずつ保存修理を進めていきます。
(小久保 拓也)



土器の保存修理 1…修理前 2…X線撮影で表面からは見えない亀裂などを確認 3…解体 4…修理完成

一年間を振り返って

是川縄文館に配属されてから、早くも 1 年が過ぎました。なすこと全てが初めての毎日は、新鮮な驚きを得る一方でつまずきの連続でもありましたが、上司・先輩方の厚いご指導のおかげで、大変学ぶことの多い 1 年となりました。特に、夏の特別展にともなって開催した「八戸の土偶」を担当した際には、八戸で出土したいろいろな時期の土偶を手に取り、自分の目で見る機会を得ることができ、大変貴重な経験となりました。そして、八戸には是川縄文館や博物館に展示されているもの以外にも、優れた資料がたくさんあることを実感しました。

これからは、是川遺跡だけではなく、ほかの八戸市の埋蔵文化財の素晴らしさも伝えられるよう、日々努めてまいりたいと思います。
(佐藤 ちひろ)



特別展ギャラリートークにて (解説中の筆者)



特別展開催記念イベントにて (解説中の筆者)



平成 29 年度 八戸市内発掘調査一覧

| 遺跡名 | 調査 | 調査原因 | 調査期間 | 調査面積 (㎡) | 種別/主な時代 |
|----------------|------|-----------------------------|-------------------|----------|------------------|
| 八戸城跡第 38 地点 | 試掘調査 | 事務所建築 | H29.4.10 | 28 | 城館跡/近世 |
| 舟渡ノ上遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.4.11 | 29 | 散布地/縄文 |
| 根城跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.4.13 | 6 | 城館跡/中世 |
| 松長根遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.4.13 | 6 | 散布地/縄文 |
| 柳引遺跡第 7 地点 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H29.4.18 ~ 4.21 | 150 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |
| 館平遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.4.24 | 26 | 集落跡・城館跡/縄文・平安・中世 |
| 小沢遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.4.27 | 29.5 | 散布地/縄文 |
| 柳引遺跡隣接地 | 試掘調査 | 範囲確認 | H29.4.28 | 30 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |
| 雷遺跡第 5 地点 | 試掘調査 | 長字作付 | H29.5.23 ~ 6.16 | 615 | 散布地/縄文・平安 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.5.30 | 19.5 | 散布地/縄文・平安 |
| 新井田古館遺跡第 31 地点 | 試掘調査 | 集合住宅建築 | H29.6.22 ~ 6.30 | 178 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |
| 八戸城跡 | 試掘調査 | 事務所建替 | H29.6.26 | 25.5 | 城館跡/近世 |
| 館平遺跡隣接地 | 試掘調査 | 範囲確認 | H29.6.27 ~ 7.5 | 13.5 | 集落跡/縄文・平安 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.7.6 | 33 | 散布地/縄文・平安 |
| 田面木遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.7.20 | 7 | 集落跡/縄文・弥生・奈良・平安 |
| 田面木遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.7.11 | 5 | 集落跡/縄文・弥生・奈良・平安 |
| 館平遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.7.24 | 5.8 | 集落跡・城館跡/縄文・平安・中世 |
| 市子林遺跡 | 試掘調査 | 既存住宅・土留ブロック解体及び駐車場造成に伴う試掘調査 | H29.9.21 | 8.75 | 集落跡/縄文・古墳~近世 |
| 柳引遺跡第 8 地点 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H29.10.2 ~ 10.6 | 208 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |
| 松長根遺跡第 2 地点 | 試掘調査 | 範囲確認 | H29.9.29 | 11 | 散布地/縄文 |
| 松ヶ崎遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.10.6 | 6 | 集落跡/縄文 |
| 館平遺跡第 29 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.10.13 | 14 | 集落跡・城館跡/縄文・平安・中世 |
| 柳引遺跡第 6 地点 | 試掘調査 | 寺院建築 | H29.10.16 | 33 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |
| 八戸城跡第 39 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.10.18 | 10 | 城館跡/近世 |
| 石橋遺跡 | 試掘調査 | 太陽光発電設備設置 | H29.11.1 | 80 | 集落跡/平安 |
| 市子林遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.11.8 | 12 | 集落跡/縄文・古墳~近世 |
| 八戸城跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.11.14 | 4 | 城館跡/近世 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H29.12.19 | 17 | 散布地/縄文・平安 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H30.3.8 | 18 | 散布地/縄文・平安 |
| 雷遺跡第 6 地点 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H30.3.13 | 22.5 | 散布地/縄文・平安 |
| 雷遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H30.3.14 | 30 | 散布地/縄文・平安 |
| 田面木遺跡 | 試掘調査 | 個人住宅建築 | H30.3.23 | 9.6 | 集落跡/縄文・弥生・奈良・平安 |
| 雷遺跡第 5 地点 | 本調査 | 長字作付 | H29.7.11 ~ 9.12 | 1,600 | 散布地/縄文・平安 |
| 市子林遺跡第 22 地点 | 本調査 | 個人住宅建築 | H29.6.23 ~ 6.29 | 82 | 集落跡/縄文・古墳~近世 |
| 松長根遺跡第 2 地点 | 本調査 | 範囲確認 | H29.10.2 ~ 10.12 | 41 | 散布地/縄文 |
| 一王寺遺跡 | 本調査 | 史跡内容確認 | H29.10.23 ~ 10.30 | 10 | 集落跡/縄文 |
| 熊野堂遺跡第 6 地点 | 本調査 | 道路工事 | H29.4.18 ~ 5.31 | 307 | 集落跡/縄文・奈良・平安 |
| 新井田古館遺跡第 31 地点 | 本調査 | 集合住宅建築 | H29.8.21 ~ 11.17 | 1,458 | 集落跡・城館跡/縄文・奈良~近世 |



《調査事務局》(平成 29 年度)

八戸市教育委員会
 教育長 伊藤 博章
 教育部長 吉田 幸司
 教育次長兼教育総務課長 橋本 淳一
 是川縄文館長 古舘 光治
 副館長 清川 定吉
 《埋蔵文化財グループ》
 埋蔵文化財 GL 小保内 裕之
 主査兼学芸員兼社会教育課主査兼学芸員 杉山 陽亮
 主査兼学芸員 横山 寛剛
 主事兼学芸員 田中 美穂
 主事兼学芸員 苧坪 祐樹
 主事兼学芸員 西村 広経
 主 事 宇部 則保
 主 事 村木 淳
 臨時職員 小笠原 善範
 《縄文の里整備推進グループ》
 縄文の里整備推進 GL 小久保 拓也
 副 参 事 大野 亨
 主 査 金澤 匡志
 主 査 熊野 聡美
 主査兼学芸員 市川 健夫
 主 事 馬場 彩香
 主事兼学芸員 上ノ山 拓己
 主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
 非常勤主事 三浦 賢子
 非常勤主事 武山 美郷
 非常勤主事 管澤 早希子

《平成 29 年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書
 第 159 集 柳引遺跡第 5 地点
 第 160 集 熊野堂遺跡第 6 地点
 第 161 集 下水道整備工事に伴う発掘調査報告書 4
 坂中遺跡第 3 地点
 滝久保遺跡第 1 地点
 石橋遺跡第 9 地点
 第 162 集 松ヶ崎遺跡第 18 地点
 田面木遺跡第 48 地点
 第 163 集 林ノ前遺跡Ⅸ
 第 164 集 史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書Ⅱ
 第 165 集 八戸市内遺跡 38

掘りday はちのへ 第 21 号

発行年月日 2018 年 6 月 15 日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 〒 031 - 0023
 青森県八戸市大字是川字横山 1
 TEL 0178 (38) 9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 http://www.korekawa-jomon.jp
 (是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社

印刷部数: 1,000 部 印刷経費: 一部あたり 97.2 円

